

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4773800034		
法人名	社会福祉法人 久仙会		
事業所名	まがい友遊苑		
所在地	沖縄県島尻郡久米島町真我里366番地		
自己評価作成日	平成27年12月3日	評価結果市町村受理日	平成28年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=4773800034-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成28年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・居室入り口にはネームプレートと写真を掲載し居室をわかりやすくしています。 ・居室ごとにカーテンの色や壁紙の模様を変え入居者の方が区別しやすくしています。 ・余暇活動ではゲーム、カラオケ、体操などを取り入れ入居者の方々が充実できるようにしています。 ・地域行事への参加やドライブなどで外出の支援を行っています。 ・他の事業所との交流を目的とした合同スポーツレク大会を開催しています。 ・カラオケ沖縄民謡を取り入れています。 ・楽しく体を動かせる体操等で参加意欲を高めるよう工夫しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の理念が職員間に周知されており、利用者一人ひとりを理解しようとする職員の姿勢がみられ、利用者の人権を尊重しながらの支援に努めている。長期間の職員減にもかかわらず、「楽しい食」を目指して事業所で食事を準備し、業務の改善を図り、利用者本位の姿勢を保ちながら職員間の連携体制の工夫をしている。外出や外泊に向けても利用者の意向に配慮した支援を実施している。法人の協力の下、週1回は看護師が配置され、利用者の健康管理面をはじめ安心できる環境づくりに配慮している。携帯電話を持参して家族と連絡をとったりする利用者もいる。職員研修を充実させ、職員のスキルアップを図っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定:平成28年4月25日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した理念を作り入居者、ご家族、訪問者、職員が見えやすいよう玄関に掲載しています。また、パンフレットや毎月発行しているまがい通信にも記載しています。	理念にある「利用者を支え、助け合い、ふれあいを大切にする」をモットーに、職員は、利用者の意向を尊重し、できることの継続支援や地域行事等での交流を通して実践している。新任職員の研修等では理念を読み合わせて周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ハーリーや町敬老会等には参加したりボランティアの受け入れ等で地域との交流が持てるようにしている。	利用者が地域住民と交流する機会は、隣接するゲートボール場でのゲーム見学や招待を受けて観戦するハーリー行事、町主催の敬老会等に限られている。法人が2か月に1度「合同スポーツ大会」を開催し、利用者同士の交流の場を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センター、居宅支援事業所、町社協等と情報交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域推進員会については徐々に参加者が少なくなりどのように開催していけばよいのかいきづまっている状況です。	運営推進会議の委員から、「開催時間の検討をしてほしい」との意見があったが、委員間の日程調整がうまくいかず、運営推進会議はこの1年間、開催が滞っている。	運営推進会議は、2か月に1回以上定期的に開催し、委員からの意見をサービスの向上に活かすことが求められている。行政や地域の代表の協力も得て、定期的に開催することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難事例なケースについては町福祉課、地域包括支援センター、社協などと連絡を取り合いサービスの向上に努めています。	これまでは運営推進会議を行政担当者との情報交換の機会とし、行政窓口への訪問は更新時等に限られていたが、事業所の空き状況の報告や要請で、社協や地域包括支援センターと情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修などを通し職員の意識向上を図り身体拘束をしないケアに努め日中は施設内での施錠は行っていません。	身体拘束について勉強会を実施し、職員間で共有している。外に出ようとする時は言葉掛けをして、利用者の意に添うよう対応している。「家に帰りたい」という要望には、デイサービスの送迎時に自宅近くへドライブする等、利用者の意向に添う支援をしている。	

沖縄県(まがい友遊苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修などを通し職員の意識向上を図り入居者への虐待がないようスタッフどうし連携を取っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修などを通し支援を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書類及び重要説明事項の内容を説明し、説明後には疑問点が無いか確認を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱とアンケート用紙を設置し、ご家族や訪問者の方が意見出しやすいようにしています。	利用者の要望は日常的に聞き、コミュニケーションの難しい方は表情や仕草で把握して支援している。利用者の意見で食事時間をずらしたり、利用者の体の動きを見てトイレ誘導のタイミングを図る等に活かしている。家族から「できることはさせてほしい」との声があり、食事の下ごしらえ等に利用者を参加させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見はその都度聞き、全体での話し合いが必要な時は会議を行っている。	職員会議は月1回全員が参加できる時間帯で開催している。職員の退職後、勤務体制の工夫により、事業所内での調理や買い物方法を改善するなど、職員の意見を反映させている。職員間にも馴染みの関係性があり、日々のケアやシフト面で協力し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給と年2回の賞与と職員の資格に応じ資格手当を支給しています。資格取得助成金制度で職員が資格を取得しやすいよう支援を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に合わせ内外の研修に参加させています。資格取得へむけた支援も行っています。		

沖縄県(まがい友遊宛)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人全事業所の合同勉強会のさい法人運営の他事業所の職員と交流を行っている。また、町主催の勉強会等を通し他の事業所との交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者の方にはスタッフが積極的に声掛けを行いながらニーズの把握と不安感を和らげるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には施設の説明を行うとともにご家族からの要望や疑問点等の確認を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の身体状況を確認し、ご本人及びご家族の要望を踏まえサービス内容を決定しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	作業等を通し役割を持つ事でやりがいの持てる生活環境に努めるとともに、昔の風習や出来事等をスタッフに教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは、月に1回まがい通信を送付したり、面会で施設に訪れたさい、入居者の状況を報告したりご家族からの要望が無いかわ確認を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで出かけたさいは、自宅周りを回ったり、また知り合いの方と出あった時はゆっくり話せるようにしている。	殆どの利用者は、行事(旧盆や旧暦1月16日)に合わせた外泊や外出の機会があり、職員は地域との関係性が途切れないよう継続的に支援している。また、利用者が信仰している宗教関係者の訪問を受けた時は、利用者と交流できるよう配慮している。	

沖縄県(まがい友遊苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係をみながらテーブル配置を調整したり、スタッフが間に入りながらコミュニケーションが取りやすいよう心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	顔を合わせた時は、声掛けを行ったり行事などの案内をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に要望を尋ねたり、日頃の会話の中からニーズの把握に努めています。	意思疎通が図れる7人の利用者からは日常的に要望を聞いている。きざみ食を嫌がる利用者には見守りながら普通食に切り替える等の支援をしている。思いを伝えることのできない利用者には、表情やしぐさ等でニーズを把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用の経過把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体の状態を把握しながらそれに合わせた作業に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望を伺い、スタッフとの話し合いを行い介護計画を作成している。	担当者会議は利用者と家族、介護職のほぼ全員が参加して話し合い、利用者等の意向や現状を介護計画に反映させている。計画の目標とサービスの実践状況が同時に確認でき、3か月毎のモニタリングや見直し等で、利用者の状態に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の生活状況は個人記録に記入し、変化があるときは職員間で情報を共有しながら介護計画書に取り入れている。		

沖縄県(まがい友遊苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応の可能なニーズに対しては柔軟に対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張利用サービスや行事の際はボランティアによる余興などを依頼しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診療を利用し、ご本人とご家族の負担を軽減したり、訪問診療時には医師に状況報告を行いながら、今後の対応について確認を行っています。	公立病院の月1度の訪問診療の利用により、本人や家族の負担軽減につながっている。予防接種等は診療所も利用し、病院受診が必要な時は家族に電話で連絡している。法人から週1回看護師が派遣され、利用者の健康管理や相談等に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、委託の看護師の訪問日に入居者の状況を報告し、体調不良の方については今後の対応の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、施設での情報を提供したり、退院時には病院からの経過確認や退院後の注意事項について確認を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアについてご家族へ説明を行い施設での受け入れについてもスタッフで話し合いを行っています。	終末期ケアについては、「重度化した場合における指針」を基に、利用開始時に説明している。看取りの実績はないが、勉強会を実施している。高齢化にともない、重度化の可能性も高くなるので、事業所としても今後さらに取り組まないとはいけないと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修にて実施しています。		

沖縄県(まがい友遊苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難消火訓練と年1回の町の災害避難訓練に参加しています。	消防署員立ち合いの避難・消火訓練と町主催の地震・津波災害避難訓練を実施したが、地域住民の参加協力は得られなかった。夜間を想定した避難訓練は計画されている。備蓄は台風を想定して準備されている。	事業所周辺に民家が少ないため、厳しい側面はあるが、災害時の昼夜を想定した避難訓練の実施、及び訓練に地域住民が参加できるような地域を巻き込んだ取り組みが望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重しながら声かけを行っています。	「体操に参加したくない」と渋る利用者の意向を尊重し、入浴時の同席を嫌がる利用者には入浴後に確認し、排泄ケア等でも、利用者の声に耳を傾け配慮している。利用者間のトラブル回避のために、席替えや言葉かけ等で対応を工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の要望を伺いながら柔軟に対応を行って居ます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余暇活動などは入居者の希望を伺ったり趣味のぬり絵など希望されときはその都度、対応を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は本人の意向を伺いながら対応しています。また、定期的に出張理容サービスを利用しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方に食べたい物が無いか尋ねたり料理の本と一緒にみながらメニューを決めたりしています。もやしなどの下ごしらえをしてもらったり食後は洗った食器を拭いたりしています。	食事は事業所で調理し、冬至のトウジンジーシュー等々の行事食も取り入れている。利用者は下ごしらえや食器拭き等に関わり、ムーチャー(鬼餅)づくりなどにも参加している。利用者同士の会話が弾み、明るい雰囲気の中で、職員も一緒に食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食摂取量をチェックし食事摂取量の少ない方については医師と相談し、高カロリー補助食品を処方しています。		

沖縄県(まがい友遊苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの促しを行っています。また、介助が必要な方はスタッフが介助を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間を見計らいながら日中はトイレ誘導を行っています。	排泄チェック表で利用者の排泄パターンを確認して日中はトイレでの排泄を支援している。利用者の内2人は自立、3人は見守りで、夜間はポータブルやオムツ等も使用している。同性介助を基本に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操等へ参加して頂きできるだけ体を動かして頂いたり、水分補給の促し等も行っていきます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェックをしながら入浴を行っています。また入居者の方からの希望がある時はその都度、調整を行ったりしています。	入浴の支援は、週に2~3回、25~30分かけて午後実施している。利用者が入浴を嫌がる時は翌日に変更したり、羞恥心から入浴を拒否する利用者には本人の意向に添うように工夫しながら対応している。冬場は浴室をシャワーで温めて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の希望の時間に眠前薬を服薬して頂いたり、その日の状態をみながら就寝の促しを行ったりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録の薬の処方箋を綴りスタッフが確認しやすいようにしています。変更がある時は申し送りノートにその都度、記載しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業等のさい個々の身体状況に合わせて作業をお願いしたり余暇活動も得手不得手の状況をみながら調整を行っています。		

沖縄県(まがい友遊苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ディサービスの送迎を利用したり、行事などのさい外出を行っています。	職員の欠員等の事情により、日常的な外出が難しいこともあるが、浜下りや花見の時は体調を見ながら全員で外出できるように支援している。ディサービスの送迎を利用して相乗りでドライブをしたり、空港の共有スペースでおやつを食べたりする支援もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持についてはご本人で管理できる方は所持しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時はその都度、対応を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間で入居者の方々々が心地よく過ごせるよう照明器具の光量やテレビやラジオのボリュームはスタッフがその都度調整を行っています。	共用空間は天井が高く、明かりとりから自然光が入り、利用者はゆったりと心地よく過ごしている。テレビや音楽のボリュームは利用者の意見を聞きながらその都度調整している。トイレの出入り口はドアとカーテンを備え付け、利用者のプライバシーに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の個々の関係をみながらテーブル配置を行ったり仕切り等で工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具などを配置したり希望者にはテレビ等の家電を置かれている方もいます。	居室には、これまでの暮らしの中での馴染みの家具や家族の写真を置いたり、テレビや宗教関係のものを持ち込んでいる利用者もいる。居心地のよい居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全面バリアフリーで居室入り口には写真とネームプレートを掲示しご本人の居室がわかりやすいように配慮しています。また、トイレは3か所とも車椅子の方が利用できるよう配慮しています。		